

アクセス方法
 <電車>
 東京駅から
 上越新幹線「越後湯沢駅」→JR上越線「塩沢駅」下車
 新潟から
 上越新幹線「浦佐駅」→JR上越線「塩沢駅」下車
 (約1時間30分)
 新潟から
 上越新幹線「浦佐駅」→JR上越線「塩沢駅」下車
 (約1時間)
 <車>
 東京から
 新潟10→塩沢石打10→南魚沼市内(旧塩沢町)(約3時間半)
 新潟中央10→塩沢石打10→南魚沼市内(旧塩沢町)(約2時間)
 ※雪の状況によって時間は変わります

memo



小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 133

雪の機(はた)
 ～新潟県 南魚沼市～

2014年3月9日(日)放送

小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>



江戸時代、良い越後上布は一反(いったん)で20農家の年収の半分ほどになったため、女性たちは家計を支えようとして染めた機織り。中でも、雪が生む高い湿度の中で織られる麻織物「越後上布」は、薄くて軽く、夏の暑物にして高級な反物として人々を魅了しました。技を受け継ぐ一人、石神雅子さんは、越後上布の美本な深みにひかれて、新潟市から南魚沼に移り住みました。麻糸は乾燥を嫌うため、暖房をつけず氷点下で糸に向き合う日々。それでも「自分の手で織れてうれしい」と笑います。

上布を奉納した仙石八幡宮

旅の見どころ 3



越後上布

旅の見どころ 2

豪雪の新潟県南魚沼市。
 深い雪が生む湿気の中で織られるのが、「越後上布」。越後の女性が継いできた伝統の麻織物です。かつて男たちが出稼ぎに行った冬、内職をして家を守ってきました。材料の麻糸をつなぐ「芋績み」(おうみ)をするのは86歳の女性。上布の美しさにひかれ、移住して機に向かう人も。傍らには、機の神が宿るとい「巻機山」(まきはたやま)がそびえます。越後上布を漂白する「雪さらし」や、江戸時代の書物「北越雪譜」(ほくえつせっぽ)にもつづられた「雪ほり」などの風景と共に、雪国の暮らしの輝きに触れる旅です。



旅の見どころ 1
雪ほり
 新潟県南魚沼市は、1メートル以上の雪が積もる豪雪地帯。積もる雪は家を覆うほどです。この地方では、雪下ろしや雪かきを、「雪ほり」といいます。何軒かの家では、木の板にろうを塗った「雪とよ」で、雪を次々に滑らせ屋根の下に落としていきます。この「雪とよ」は、明治の頃から使われているものです。屋根の端までいかに、雪を下ろす知恵が、大切に受け継がれています。

